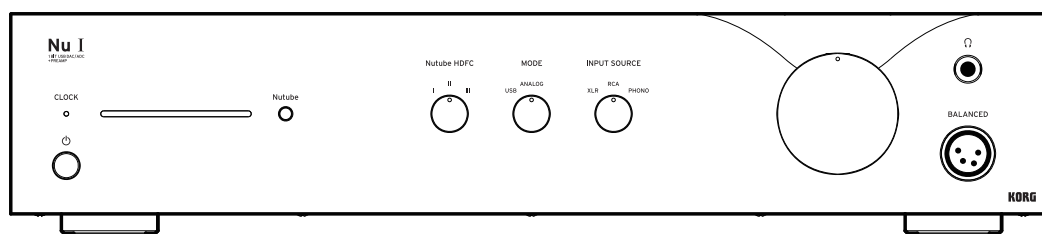


Nu I

1 BIT USB DAC/ADC
+PREAMP

取扱説明書



KORG

安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。

注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

マークについて

製品には下記マークが表示されています。

WARNING:
TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.



マークには次のような意味があります。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは注意喚起シンボルであり、取扱説明書などに一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△記号は、注意(危険、警告を含む)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘記号は、禁止(してはいけないこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	●記号は、強制(必ず行うこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性があります。



- 電源プラグは、必ず AC100V の電源コンセントに差し込む。
- 電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。
感電やショート恐れがあります。
- 本製品はコンセントの近くに設置し、電源プラグを容易に手が届くようにする。



- 次のような場合には、直ちに電源を切って電源コードのプラグをコンセントから抜く。
 - 電源コードやプラグが破損したとき
 - 異物が内部に入ったとき
 - 製品に異常や故障が生じたとき
 修理が必要なときは、お客様相談窓口へ依頼してください。



- 本製品を分解したり改造したりしない。



- 修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれていること以外は絶対にしない。
- 電源コードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、電源コードの上に重いものをのせない。
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- 大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。
大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- 本製品に異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)を入れない。
- 温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など)で使用や保管をしない。
- 振動の多い場所で使用や保管をしない。
- ホコリの多い場所で使用や保管をしない。



- 風呂場、シャワー室で使用や保管をしない。



- 雨天時の野外のように、湿気が多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管をしない。
- 本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。
- 本製品に液体をこぼさない。



- 濡れた手で本製品を使用しない。

注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります。



- 正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。
- ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。
ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
- 外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。
- 電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ずプラグを持つ。



- 長時間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く。
電源スイッチをオフにしても、製品は完全に電源から切断されていません。



- 付属の電源コードは他の電気機器で使用しない。
付属の電源コードは本製品専用です。他の機器では使用できません。
- 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしない。
本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。
故障の原因になります。
- 外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーを使用しない。

- **不安定な場所に置かない。**
本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損したりする恐れがあります。
- **本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。**
本製品が落下または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が破損したりする恐れがあります。
- **本製品の隙間に指などを入れない。**
お客様がけがをしたり、本製品が故障したりする恐れがあります。
- **地震時は本製品に近づかない。**
- **本製品に前後方向から無理な力を加えない。**
本製品が転倒する危険性があります。

温度管理について

本製品の温度が極端に高くないように、設置場所や設置方法にご注意ください。特に、本体の上に他の機器を載せたり、高温を発生する機器の上に本体を載せたりすると、本製品の使用温度条件(0℃～+40℃)を超える高温状態になり、誤動作や故障の原因になります。本製品周囲の温度上昇には、十分に注意してお使いください。

著作権について

著作権者から許諾を得ていない著作物を、個人、家庭内、またはその他のこれに準ずる限られた範囲以外で使用した場合、著作権侵害となり、損害賠償を含む補償を負う場合があります。そのような著作物を録音したものはもちろん、著作物に手を加えて作られたものにも、著作権者の権利が含まれていますので、これら成果物の転載、配信などは、著作権侵害となります。著作権侵害によって発生した損害賠償などは、当社は一切の責任を負いかねます。使用者自身の権利について不明確なときは、法律の専門家に相談してください。

取扱説明書の表記

マーク 、Note、Tip

これらのマークは、順番に、使用上の注意、ノート、アドバイスを表しています。

ディスプレイ表示

取扱説明書に記載されている各種のパラメーターの数値などは表示の一例ですので、本体のディスプレイの表示と必ずしも一致しない場合があります。

はじめに

このたびは、コルグ1 BIT USB DAC / ADC + PREAMP Nu Iをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。本製品を末永くご愛用いただくためにも、この取扱説明書をよくお読みになって正しい方法でご使用ください。

Nu Iの主な特長

Nu Iは、新型真空管Nutube *¹を搭載したフォノ・イコライザー内蔵プリアンプとして、またコンピューターと接続して1bit DSDネイティブ再生および録音に対応したUSB DAC/ADCとして使用することができます。

- Nu Iは、Nutubeを左右のチャンネルに1個ずつ搭載しています。レコード・プレーヤーなどのアナログ音源や、コンピューターで再生したデジタル音源などを真空管のサウンドで鑑賞できます。またNutube HDFC機能*²によって、真空管特有の音色を好みに合わせて選択できます。
- RIAAフォノ・イコライザー回路を本体に内蔵しています。
- 標準ヘッドホン端子に加え、バランス駆動のヘッドホンに対応する4極XLRバランス型ヘッドホン端子を搭載しています。
- USB-DAC/ADCとしてアナログ音源をWindows PC (ASIO、WDM)、Mac (Core Audio)経由で再生および録音できます。ソフトウェア「AudioGate 4」との連携により、1bitDSDの高音質を生かしたネイティブ再生、録音が可能です。
- 専用オーディオ・ドライバー「KORG Ex Audio Driver」は、「S.O.N.I.C. (Seigen Ono Natural Ideal Conversion) リマスタリング・テクノロジー」*³を搭載しています。プロフェッショナルなマスタリング・エンジニアのノウハウにより、PCMからDSDへ、音源をリアルタイムでリマスタリングして再生することが可能です。
Note: Windows用ドライバーは「KORG Ex ASIO Driver」、Mac用ドライバーは「KORG Ex Audio Device Driver」で、「KORG Ex Audio Driver」はこれらの総称です。
- スタジオ機器との接続に適したXLR入出力端子を装備しています。4台まで同時にUSB接続して、専用アプリケーション「AudioGate Recording Studio」との連携によりDSDによるマルチトラック録音が可能です。またWORD CLOCK端子も搭載し、プロフェッショナルの現場での使用に耐えうる設計となっています。

* 1 Nutube は、株式会社コルグとノリタケ伊勢電子株式会社が、蛍光表示管の技術を応用して開発した新しい真空管です。Nutube は従来の真空管と同じく、アノード・グリッド・フィラメントの構造を持ち、完全な3極真空管として動作します。また従来の真空管と同様、真空管特有の豊かな倍音やレスポンスを生み出します。 <http://korgnutube.com/jp/>

* 2 HDFC: Harmonic-Detecting Feedback Circuit (倍音検出帰還回路)は、SIT オーディオ・アンプ開発者として著名な横山健司氏によって設計されました。

横山健司氏プロフィール: ヤマハ株式会社で約30年間、アンプなどの設計を担当、B1、B2などほぼすべての商品設計に携わった後、商品開発サポート会社を設立、大手メーカーの技術顧問として開発サポートを行う。また現在は、東京大学工学研究科IoTメディアラボラトリー(2017年4月新設)特任研究員として、次世代の音響技術の研究開発に従事。

* 3 エンジニア / ミュージシャンとして活躍中のオノセイゲン氏がプロデュースした「S.O.N.I.C. (Seigen Ono Natural Ideal Conversion) リマスタリング・テクノロジー」により、Windows PCでもMacでも、iTunes、YouTube... コンピューター内のすべてのサウンドを、DSDクオリティーでお楽しみいただけます。

オノセイゲン氏プロフィール: 録音エンジニアとして、1982年の「戦場のメリークリスマス / 坂本龍一」に始まり、渡辺貞夫、キース・ジャレット、マイルス・デイビス、アート・リンゼイ等、多数のアーティストのプロジェクトに参加。その一方で1984年アーティストとしてJVCよりデビュー。『COMME des GARÇONS SEIGEN ONO』他多数のアルバムを発表。1987年「サイデラ・レコード」、1996年「サイデラ・マスタリング」設立。 <http://www.saidera.co.jp/seigen.html>

- すべての製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

目次

安全上のご注意 2

Nu Iを安全にご使用いただくための説明です。
ご使用になる前に必ずお読みください。

はじめに 3

Nu Iの主な特長 3

Nu Iのご紹介です。

各部の名称と機能 5

1. フロント・パネル 5

2. リア・パネル 6

Nu Iのボタンやノブ、接続端子について説明しています。

接続 8

1. 入力機器を接続する 8

2. 出力機器を接続する 8

3. コンピューターを接続する 9

4. 電源に接続する 9

Nu Iにレコード・プレーヤーなどの入力機器をアナログ接続する方法、アンプなどの出力機器を接続する方法、Nu Iとコンピューターを接続する方法などを説明しています。
Nu Iとコンピューターを接続する前に、必ず専用オーディオ・ドライバーをインストールしてください。

電源のオン / オフ 10

1. 電源をオンにする 10

2. 電源をオフにする 10

Nu Iの電源をオン / オフする方法を説明しています。

ソフトウェアのダウンロードとインストール 10

1. Nu Iの関連ソフトウェア 10

2. ソフトウェアのダウンロード 11

3. KORG Ex Audio Driver (専用オーディオ・ドライバー)とAudioGateのインストール 11

ソフトウェアのダウンロード方法と、専用オーディオ・ドライバーやDSDネイティブ再生/録音するAudioGateのインストール方法について説明しています。

再生と録音の方法 12

1. 操作する前に 12

2. DSD ファイルをネイティブ再生する 12

3. DSD で録音する 15

4. アナログ入出力のオーディオ・アンプとして使用する 16

5. 「S.O.N.I.C. リマスタリング・テクノロジー」を使用してPCM 音声をDSDに変換する 17

6. 複数のNu Iを接続して、マルチトラック・レコーディングする 17

AudioGateを使用したDSDファイルのネイティブ再生とNutubeを通じた再生方法 / アナログ・ソースをDSD録音する方法、などを説明しています。また、Nu IをNutubeとフォノ・イコライザー内蔵プリアンプとして使用する方法を説明しています。

付録 17

故障とお思いになる前に 17

Nu Iの動作等がおかしいと思ったときに、まずは確認していただきたい事項をまとめています。

仕様 19

Nu Iの仕様です。

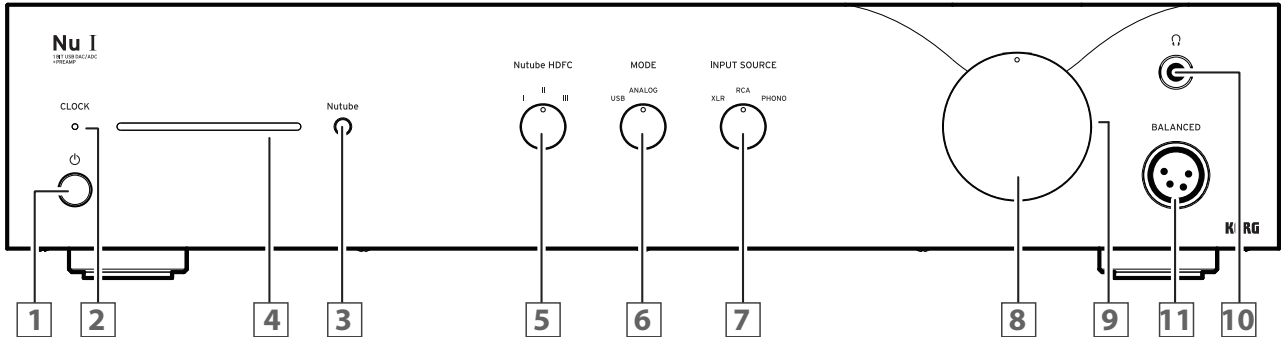
保証規定 (必ずお読みください) 20

アフターサービス 20

Nu Iの保証、アフターサービスについて説明しています。

各部の名称と機能

1. フロント・パネル



1: 電源ボタン、インジケータ

ボタンを押して、電源をオン(白色点灯)、オフ(オレンジ色点灯)します。オフにするにはボタンを約3秒間押します。

Note: 電源オン直後の起動準備の間、インジケータは白色点滅します。

2: CLOCKインジケータ

ワード・クロックの同期状態を示します。

同期:点灯、同期エラー:点滅、同期無し:消灯

Note: 同期はリア・パネルのWORD CLOCK ON/OFFスイッチで設定します(☞7ページ)。

3: Nutubeボタン

4: Nutubeインジケータ

Nutubeをオン(Nutubeインジケータ点灯)、オフ(消灯)します。

Note: Nutubeの効果は出力音にのみかかり、その効果を録音することはできません。

5: Nutube HDFCセクター

真空管特有の音色の効果を設定します。

Nutubeがオンのときに設定が有効になります。

Iで最も弱く、IIIで最も強い効果となります。

6: MODEセクター

Nu IをUSB ADC/DACとして使用するか、単独のプリアンプまたはフォノアンプとして使用するかを選択します。

「MODE別ブロック図」(☞9ページ)を参照してください。

ANALOG: 単独のプリアンプまたはフォノアンプとして使用します。レコード・プレーヤーやCDプレーヤーのアナログ出力などのアナログ音源を再生するときに設定します。

ANALOGに切り替えたとき、入力レベルは0dBにリセットされます。Nu I Control Panelで変更することができます。

PHONO L,R端子からの入力に内蔵RIAAフォノ・イコライザがかかります。

INPUTS PHONO端子、LINE端子の音声のアナログのままOUTPUTS LINE端子とヘッドホン端子へ出力されます。

Note: MODEセクターがANALOGのときでも、USBに接続したコンピューターを経由して録音および再生することができます。

USB: USBに接続したコンピューターを経由して録音および再生するときに設定します。入力レベルはNu I Control Panelで設定します。

PHONO L,R端子からの入力に内蔵RIAAフォノ・イコライザはかかりません。PHONO L,R端子にレコード・プレーヤーを接続して録音するときには、AudioGateのソフトウェア・フォノ・イコライザを録音または再生時に使用します。(☞「レコード・プレーヤーの音声を録音する」15ページ)

7: INPUT SOURCEセクター

音声を入力するINPUTS端子をXLR、RCA、PHONOから選択します。

Note: PHONOの場合は使用するカートリッジのタイプによって、リア・パネルのMC/MMスイッチを正しく設定してください。

8: ボリューム・ノブ

ヘッドホン出力のアンバランス、バランスとOUTPUTS LINEのRCA、XLR出力の音量を調節します。

9: DSD/PCMインジケータ

USB転送(再生、録音)がDSDで行われているときは白色、PCMで行われているときにはライトグリーンに点灯します。

10: 〰️(ヘッドホン)端子

11: BALANCED 〰️(ヘッドホン)端子

〰️(ヘッドホン)端子には、6.3mmステレオ・フォン・プラグ(アンバランス)のヘッドホンを接続します。

BALANCED 〰️(ヘッドホン)端子には、4ピンXLRコネクタ(バランス)のヘッドホンを接続します。

(1: L+, 2: L-, 3: R+, 4: R-, スクリーン: GND)

〰️(ヘッドホン)端子、BALANCED 〰️(ヘッドホン)端子共に、音量はNu Iのボリューム・ノブで調節します。Nutubeボタン、Nutube HDFCセクターの設定によってNutubeの音色変化を楽しむことができます。

🔌 ヘッドホンの接続について

〰️(ヘッドホン)端子(アンバランス、バランス)にヘッドホン・プラグを抜き差しするときは、必ず、ボリューム・ノブを左いっぱいまで回して音量を絞りでください。ヘッドホン・プラグを抜き差しするときに、出力音量が大きいと動作異常もしくは故障が生じる可能性があります。

2. リア・パネル

INPUTS(音声入力端子)

PHONO

1: L,R端子(RCA)

レコード・プレーヤーの出力端子と接続します。RCAピン端子(アンバランス)です。

レコード・プレーヤーの音声を聞いたり、録音したりします。アース線を必ずGND端子に接続してください。

Note: フォノ・イコライザー内蔵のレコード・プレーヤーを接続する場合はLINE L,R端子(RCA)に接続してください。詳しくはレコード・プレーヤーの取扱説明書を参照してください。

2: MC/MMスイッチ

レコード・プレーヤーのカートリッジ形式(MC、MM)に合わせて切り替えます。

Note: MCカートリッジには、MMと同等の出力レベルのものもあります。その場合、MM側でご使用ください。詳しくはカートリッジの取扱説明書を参照してください。

3: GND端子

レコード・プレーヤーのアース線を接続します。

LINE

4: L,R端子(RCA)

通常、CDプレーヤーなど民生用オーディオ機器のアナログ出力端子に接続します。RCAピン端子(アンバランス)です。

5: L,R端子(XLR)

通常、スタジオ機器の3ピンXLR出力端子に接続します。

1: GND, 2: HOT, 3: COLD

⚠ XLR入力はスタジオ機器を接続することを前提として設計されています(基準レベル: +4dBu)。民生用オーディオ機器のXLR出力を接続した場合に、レベルが小さいことがあります。

⚠ マイク入力には対応していません。マイクを接続する場合はマイク用プリアンプの出力を接続してください。

OUTPUTS(音声出力端子)

LINE

6: L,R端子(RCA)

7: L,R端子(XLR)

フロント・パネルのボリューム・ノブによる音量調節回路、およびNutubeボタン、Nutube HDFCセレクトターの設定が有効なNutubeを通るアナログ出力です。

Nutubeによる音色の変化を楽しみたいときや、出力先の機器で音量調節ができない(をしない)ときに使用します。

それぞれRCAピン端子(アンバランス)、3ピンXLR端子(バランス)に接続します。

⚠ XLR出力はスタジオ機器を接続することを前提として設計されています(基準レベル: +4dBu)。民生用オーディオ機器のXLR入力に接続した場合にレベルが大きく、歪むことがあります。詳しくはバランス接続する機器の取扱説明書を参照してください。

USB-DAC DIRECT

8: L,R端子(RCA)

9: L,R端子(XLR)

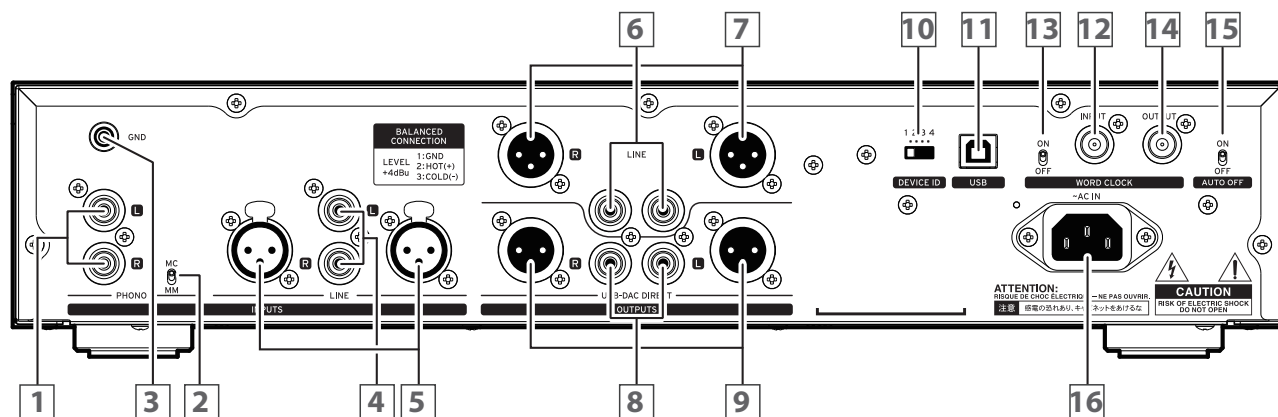
コンピューターからUSB端子を経由して入力される音声を、ボリューム・ノブによる音量調節回路とNutubeを通さずにダイレクトに出力します。

⚠ この端子からはUSB端子からの音声のみが出力されます。MODEセレクトターがANALOGのときでもアナログ入力音は出力されません。

音量調節は接続先の機器で行います。音量調節可能なプリアンプ・アンプ、プリアンプ、ミキサーなどに接続して使用します。

それぞれRCAピン端子(アンバランス)、3ピンXLR端子(バランス)に接続します。

⚠ XLR出力はスタジオ機器を接続することを前提として設計されています(基準レベル: +4dBu)。民生用オーディオ機器のXLR入力に接続した場合にレベルが大きく、歪むことがあります。詳しくはバランス接続する機器の取扱説明書を参照してください。



各出力端子の仕様

出力端子	音量	出力される音声入力	接続先
LINE	可変	アナログ入力 USB(デジタル)入力	プリメイン・アンプ、パワー・アンプ、パワード・モニター・スピーカーなど
USB-DAC DIRECT	固定	USB(デジタル)入力	プリメイン・アンプなど
🔊(ヘッドホン)、 BALANCED 🔊(ヘッドホン)	可変	アナログ入力 USB(デジタル)入力	ヘッドホン

DEVICE ID

10: DEVICE IDセレクター

1台のコンピューターに4台までのNu1を接続して同時にマルチトラック録音、再生をするときに設定します。機器の識別番号としてそれぞれ別の番号を設定します。

⚠️ DEVICE IDは、電源をオフにして設定してください。電源がオンの状態で設定を切り替えた場合、次回、電源をオンにするまで反映されません。

⚠️ 同じ番号に設定されているNu1が同一のコンピューターに接続されていると正しく動作しません。

USB

11: USB端子 (USB B)

コンピューターのUSB2.0対応のUSB A端子に接続します。Nu1をUSB DAC/ADCとして、再生および録音するときに使用します。

1台のコンピューターに4台まで接続して、マルチトラック・オーディオ・インターフェイスとして使用できます。

WORD CLOCK

12: INPUT端子

13: ON/OFFスイッチ

WORD CLOCK出力端子を装備した外部のデジタル機器と同期するときや、複数台のNu1を同期するときに接続します。AudioGate Recording Studio 付属の「取扱説明書」を参照してください。

入力したWORD CLOCKに同期させるには、ON/OFFスイッチをONにします。

同期の状態はフロント・パネルのCLOCKインジケーターに表示されます。(☞「CLOCKインジケーター」5ページ)

Note: コンピューターからサンプリング周波数を変更するときはON/OFFスイッチをOFFに設定して、正しいクロックを入力してからONにしてください。同期エラーが発生したときもOFFにして、正しいクロックを入力してからONにしてください。

入力にはコンピューターや外部デジタル機器側で設定したサンプリング周波数と同じ周波数(44.1kHz~384kHz)のワード・クロックを入力します。

1bitフォーマット時は、以下のワード・クロック(サンプリング周波数の64分の1)を入力します。

- ・ 2.8MHzのとき44.1kHz
- ・ 5.6MHzのとき88.2kHz
- ・ 11.2MHzのとき176.4kHz

14: OUTPUT端子

WORD CLOCK入力端子を装備した別のデジタル機器と同期するときや、複数台のNu1を同期するときに接続します。AudioGate Recording Studio 付属の「取扱説明書」を参照してください。

常に同期用のワード・クロックが出力されます。

1bitフォーマット時は、以下のワード・クロック(サンプリング周波数の64分の1)が出力されます。

- ・ 2.8MHzのとき44.1kHz
- ・ 5.6MHzのとき88.2kHz
- ・ 11.2MHzのとき176.4kHz

AUTO OFF

15: AUTO OFFスイッチ

ON: Nu1のMODEセレクターがANALOGのときに、Nu1のボタンやボリュームなどを操作していない状態で、かつ入力のない無音の状態が30分経過すると、電源が自動的にオフになります。(オート・パワー・オフ)

Note: MODEセレクターがUSBのときは無効です。

OFF: 自動的にオフに切り替わりません。

16: ~AC IN (AC電源端子)

付属の電源コードを接続します。

電源コードを本機に接続してから、プラグをコンセントに接続してください。

接続

各接続を行うときは、接続するすべての機器のボリュームを最小にして、電源をオフにしてください。

1. 入力機器を接続する

レコード・プレーヤーは、RCA ピンの L、R 端子を Nu1 の PHONO L、R端子に接続します。アース線はGND端子に接続します。

Note: レコード・プレーヤーがフォノ・イコライザーを内蔵している場合はNu1のINPUTS LINE L、R 端子に接続します。

また、使用するカートリッジに合わせて、Nu1のMC/MM スイッチを設定します。

CD プレーヤーなどのオーディオ機器は、アナログ出力を Nu1のINPUTS LINE L、R端子に接続します。機器の端子に合わせてRCAピン(アンバランス)、またはXLR(バランス)を接続します。

2. 出力機器を接続する

Nutube による音色の変化を楽しみたいときや、音量調節ができないパワー・アンプまたは調節しづらいパワー・モニター・スピーカー等を接続する(またはNu1のボリューム・ノブで音量を調節したい)ときは、これらの機器のアナログ入力端子に、Nu1のOUTPUTS LINE L、R端子を接続します。通常、民生用オーディオ機器はRCAピン(アンバランス)に接続します。スタジオ機器はXLR(バランス)に接続します。

Note: MODEセクターがALANOGのときは、INPUTSの各端子からのアナログ入力音がNutubeと音量調節回路を通して、OUTPUTS LINE L、R端子へ出力されます。

(☞「MODE: ANALOG」9ページ)

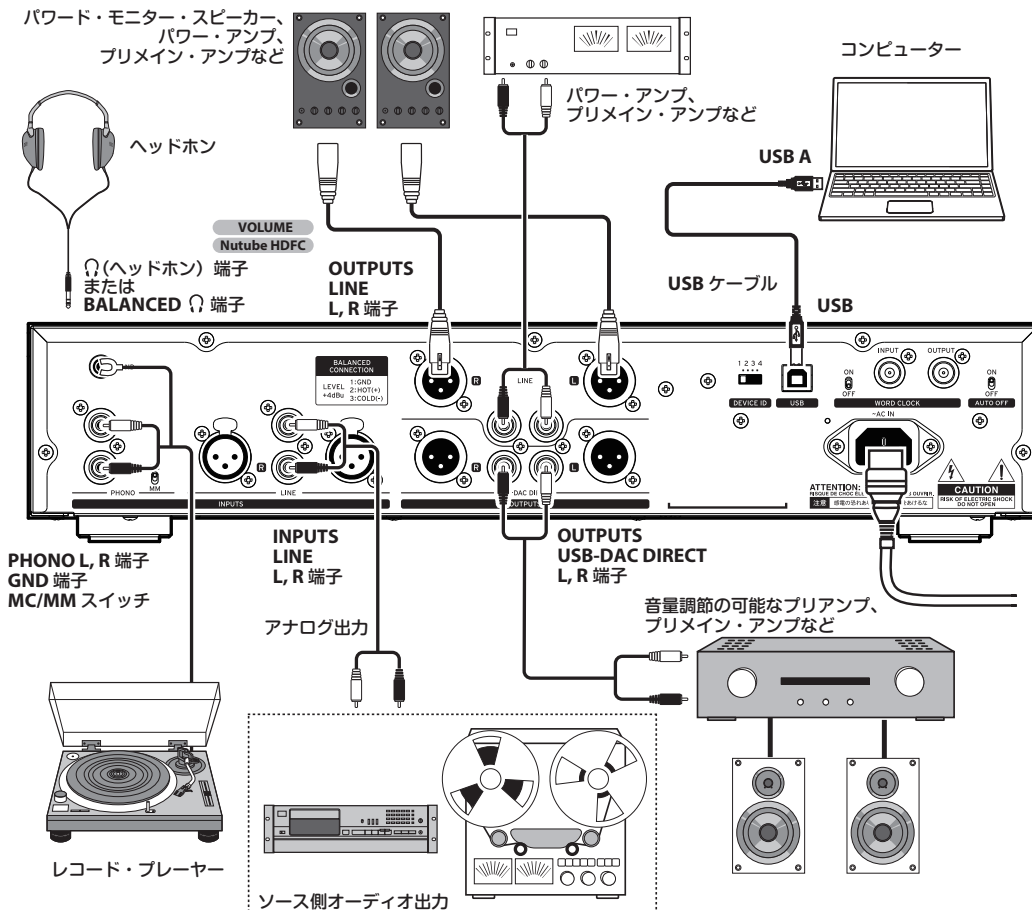
MODEセクターがUSBのときは、USB端子からのデジタル入力音が、Nutubeと音量調節回路を通して、OUTPUTS LINE L、R端子へ出力されます。

(☞「MODE: USB」9ページ)

USB 端子からのデジタル音声を、Nutube と音量調節回路を通さずにダイレクトで出力したいときは、Nu1のOUTPUTS USB-DAC DIRECT L、R端子を音量調節可能なプリメイン・アンプ、ミキサーなどのアナログ入力端子に接続します。通常、民生用オーディオ機器はRCAピン(アンバランス)に接続します。スタジオ機器はXLR(バランス)に接続します。

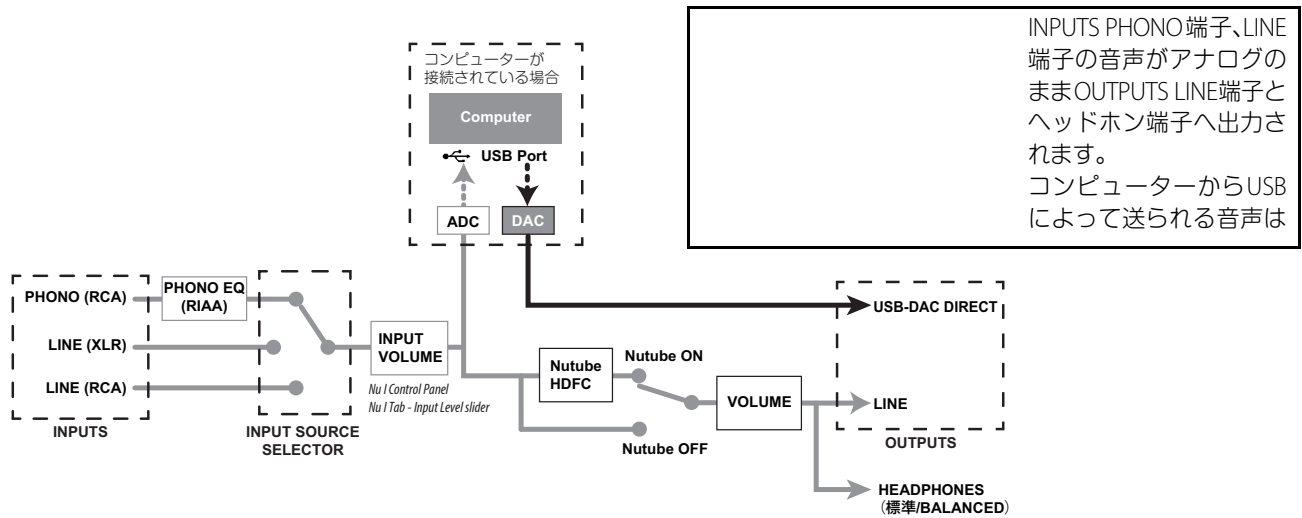
Note: MODEセクターがUSBまたはANALOGのどちらの設定でも、常にUSBから入力された音声は、ダイレクトに(Nutubeと音量調節回路を経由しないで)OUTPUTS USB-DAC DIRECT L、R端子へ出力されます。

ヘッドホンの標準プラグは、(ヘッドホン)端子に接続します。バランス出力のヘッドホンは4ピンXLR変換ケーブルを使用して、BALANCED (ヘッドホン)端子に接続します。音量調節はNu1のボリューム・ノブで調節します。Nutubeボタン、Nutube HD/FCセクターの設定によってNutubeの効果がかけられます。

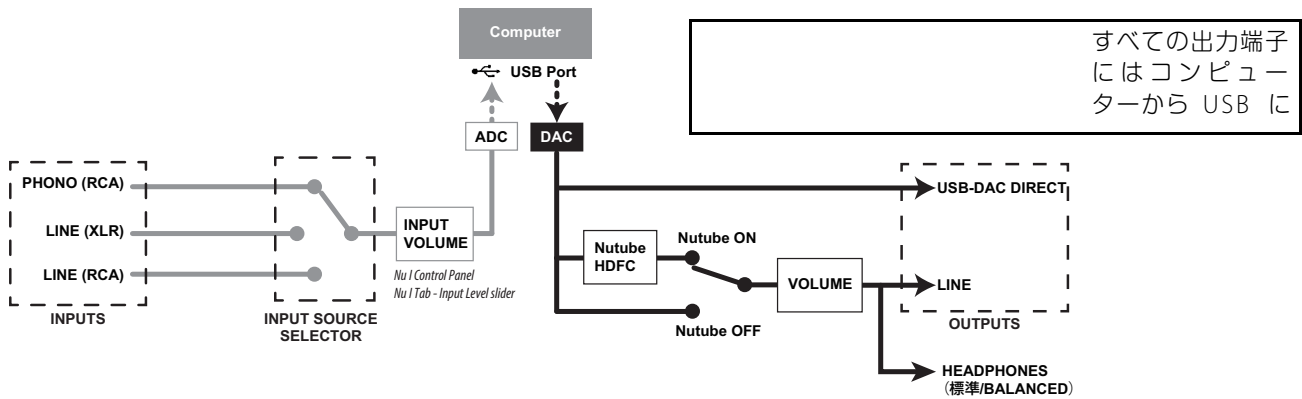


MODE別ブロック図

MODE: ANALOG



MODE: USB



3. コンピューターを接続する

Nu1に入力されるアナログ音声をコンピューターで録音したり、コンピューターからの出力音声をNu1で再生するときに接続します。

オーディオ・プレーヤーはAudioGate 4.5またはそれ以降のバージョンを推奨します。録音にはAudioGate Recording StudioまたはAudioGate 4.5の使用を推奨します。

- ⚠ Nu1を接続する前に、コンピューターに必ずKORG Ex Audio Driver(専用オーディオ・ドライバー)をインストールしてください。
専用オーディオ・ドライバーは、Nu1のすべての機能を活用するために、ご使用になるWindows PCまたはMacに必ずインストールしてください。

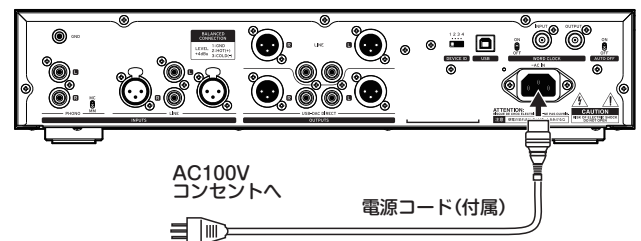
- 1 ソフトウェアをコルグ・ウェブサイトからダウンロードして、KORG Ex Audio DriverとAudioGateをコンピューターにインストールします。(p.10ページ)
- 2 Nu1のUSB端子とコンピューターのUSB2.0対応のUSB A端子を付属のUSBケーブルで接続します。

- ⚠ 初期設定、動作確認時には付属のUSBケーブルをお使いください。
- ⚠ オーディオ・ドライバーは、Nu1とコンピューターを接続して、電源をオンにしたときに認識されます。

4. 電源に接続する

- ⚠ 必ず付属の電源コードをお使いください。他の電源コードを使用した場合、故障の原因となります。
- ⚠ 電源は必ずAC100Vを使用してください。

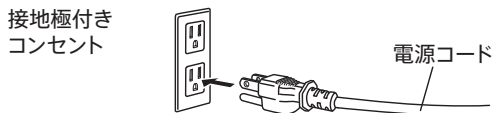
- 付属の電源コードを接続します。
付属の電源コードをリア・パネルの~AC IN端子に接続します。電源プラグをコンセントに接続します。



電源が接続されると、(電源) ボタンのインジケータがオレンジ色に点灯します。

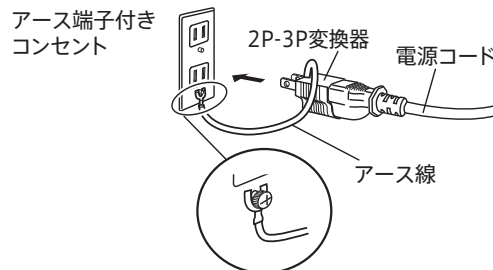
- ⚠ 付属の電源コードのプラグには、アース端子が付いています。感電と機器の損傷を防ぐために、アース接続を確実に行ってください。

接地極付きコンセントに接続する場合



接地極付きコンセントに電源コードのプラグをそのまま差し込んでください。

アース端子付きコンセントに接続する場合



電源コードのプラグに、2P-3P変換器を取り付けます。そして、コンセントのアース端子にアース線を接続し、2P-3P変換器のプラグを差し込みます。

警告: アース接続は、コンセントにプラグを差し込む前に行ってください。また、アース接続を外すときは、コンセントからプラグを抜いてから行ってください。

2P-3P変換器のアース線のU字端子にカバーが付いている場合は、カバーをはずして使用してください。

接続方法が分からないときは、お客様相談窓口にご相談ください。

電源のオン / オフ

1. 電源をオンにする

- 1 Nu1のボリューム・ノブを左に回しきり最小にします。
接続している出力機器等の音量も最小にします。
- 2 Nu1の⏻(電源)ボタンを押して、電源をオンにします。
- 3 OUTPUTS LINE L,R端子に出力機器を接続している場合、またはヘッドホンを接続している場合は、音量をNu1のボリューム・ノブで調節します。
OUTPUTS USB-DAC DIRECT L,R端子に出力機器を接続している場合は、プリメイン・アンプ等で音量を調節します。

2. 電源をオフにする

- 1 Nu1のボリューム・ノブを左に回しきり最小にします。
接続している出力機器等の音量も最小にします。
Note: OUTPUTS USB-DAC DIRECT L,R端子に接続したプリメイン・アンプ等の機器の音量は必ず最小にしてください。
- 2 Nu1の⏻(電源)ボタンを約3秒間押して、電源をオフにします。

ソフトウェアのダウンロードとインストール

1. Nu1の関連ソフトウェア

Nu1をWindows PCまたはMacに接続して、再生および録音するための各ソフトウェアには以下があります。

これらのソフトウェアは下記からダウンロードすることができます。

<http://www.korg.com/products/audio/audiogate4/download.php>

KORG Ex Audio Driver(専用オーディオ・ドライバー)

S.O.N.I.C.リマスタリング・テクノロジーによるDSDリマスタリングをするためのドライバーです。Windows PCではASIO機能も本ドライバーに含まれています。

▲ ご使用になるコンピューター(Windows PCまたはMac)に、必ず専用オーディオ・ドライバーをインストールしてから、Nu1を接続してください。専用オーディオ・ドライバーは、Nu1のすべての機能を活用するために必要なものです。

AudioGate4 (HIGH RESOLUTION MUSIC PLAYER)

DSDネイティブ再生、録音をするためのソフトウェアです。Nu1にはAudioGate 4.5以降のバージョンが対応しています。

Tip: Windows PCではASIO2.1 DSD対応ソフトウェアでもDSD再生、録音が可能な場合があります。

Note: これ以降の説明での「AudioGate」という表記はAudioGate 4.5またはそれ以降のバージョンを意味します。

AudioGate Recording Studio (DSD専用マルチトラック・レコーダー・アプリケーション)

AudioGate Recording Studioは、複数台のNu1を接続して、最大8チャンネルのマルチトラック録音を行うソフトウェアです。11.2896MHzでの録音にも対応しています。

詳細は、ソフトウェアAudioGate Recording Studioに付属の「マルチトラック・レコーディング・ガイド」を参照してください。

Note: Nu1 1台での2ch録音はAudioGate Recording Studioでもできますが、AudioGateのフォノ・イコライザーを利用した録音や、ソング再生が目的の場合はAudioGate 4.5(またはそれ以降のバージョン)をご使用ください。

Note: PCMのマルチトラック・レコーディングには一般のDAWが使用できます。

各ソフトウェアの動作環境

各ソフトウェアの動作環境、および最新のOSの対応状況についてはコルグ・ウェブサイトをご覧ください。

https://www.korg.com/nu_1/

<http://www.korg.com/support/os/>

2. ソフトウェアのダウンロード

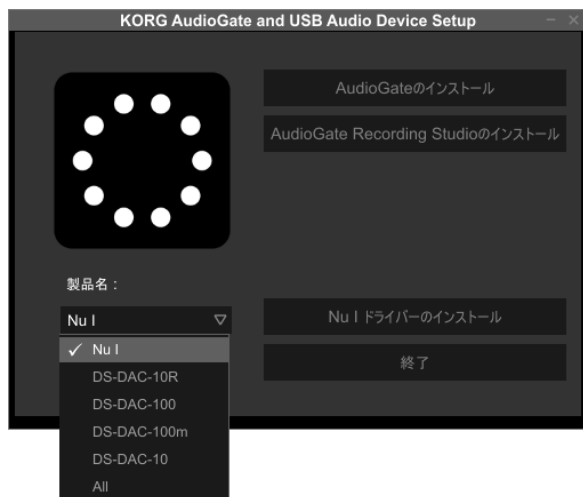
- 1 下記のAudioGate 4のダウンロード・ページにアクセスします。
http://www.korg.com/products/audio/audiogate4/download.php
- 2 ご使用になるWindows版またはMacOS版のダウンロード・ページにジャンプするボタンをクリックします。
- 3 ソフトウェア (ZIPファイルまたはdmgファイル) をダウンロードします。


3. KORG Ex Audio Driver(専用オーディオ・ドライバー)とAudioGateのインストール

Windows PC の場合

セットアップ・プログラムからのインストール

- 1 ダウンロードしたZIPファイルを解凍します。
- 2 KORG AudioGate and USB Audio Device Setupフォルダー内のSetup を実行します。
セットアップ・プログラムKORG AudioGate and USB Audio Device Setupが表示されます。
- 3 “製品名”下のボックスの▼をクリックして、“Nu I”を選択します。
右側にNu I用のアプリケーションとドライバーのインストール・ボタンのみが表示されます。



- 4 “Nu Iドライバーのインストール”をクリックして、専用オーディオ・ドライバーをインストールします。
- 4  ドライバーのインストール完了前にNu Iをコンピューターに接続しないでください。すでに接続してしまっている場合は一旦取り外してドライバーのインストール完了後に接続し直してください。
- 5 “AudioGateのインストール”をクリックして、インストールします。
インストール中に表示される“AudioGate のアクティベーションについて”をよくお読み頂き、インストールを完了させます。

- 6 “終了”をクリックします。

専用オーディオ・ドライバーのインストール手順

ここではWindowsの標準的な手順に従って説明を行います。Windowsのバージョンや環境によってコンピューターに表示されるインストール画面は多少異なりますが、手順は同様です。

インストールの途中で、インストールするかしないかを尋ねるダイアログが表示された場合には【インストール】をクリックしてください。

- 1 ダウンロードしたKORG AudioGate and USB Audio Device Setupパネルの“Nu Iドライバーのインストール”をクリックして、インストーラーを起動します。
- 2 言語の選択ダイアログが現れますので、「日本語」を選択して【OK】をクリックします。
- 3 「KorgExAsioDriver用のInstallShieldウィザードへようこそ」というダイアログが現れますので、【次へ(N) >】をクリックします。
- 4 使用許諾契約の条項に同意したら、【インストール】をクリックして、インストールを開始します。
- 5 セキュリティ警告が表示された場合は、【インストール】をクリックします。
- 6 ドライバーが正常にインストールされたというメッセージが表示されたら、【完了】をクリックしてインストーラーを終了させます。
- 7 Nu Iとコンピューターを接続します。
- 8 Nu Iの電源を入れます。
Windows PCにデバイス ドライバー ソフトウェアが正しくインストールされて、使用する準備ができると、Windowsからメッセージが表示されます。しばらくお待ちください。

Note: Windowsからのメッセージが表示されないことがあります。その場合はWindowsのサウンドコントロールパネルを開き、KORG Ex Audio Device が再生タブに表示されていることを確認してください。

Mac の場合

- 1 ダウンロードしたdmgファイルをマウントします。
- 2 “KORG AudioGate and USB Audio Device Setup” 内の Setupを実行します。
セットアップ・プログラムKORG AudioGate and USB Audio Device Setupが表示されます。
- 3 “製品名”下のボックスの▼をクリックして、“Nu I”を選択します。
リストにNu I用のアプリケーションとドライバーが表示されます。



- 4 “Nu I ドライバーのインストール” をクリックして専用オーディオ・ドライバーをインストールします。
インストーラーに表示される手順に従って、インストールを完了してください(完了後に再起動が必要になります)。
- 5 “AudioGateのインストール”をクリックします。
インストール中に表示される“AudioGate のアクティベーションについて”をよくお読み頂き、インストールを完了させます。
- 6 “終了” をクリックします。

再生と録音の方法

1. 操作する前に

- ⚠ Nu Iを使用する前に、必ず以下の作業を済ませてください。
- 1 入出力機器およびコンピューターが適切に接続されていることを確認します。(☞8ページ,9ページ)
 - 2 コンピューターと接続する場合は、ソフトウェアがインストール済みであることを確認します。(☞10ページ)
 - 3 Nu Iを電源に接続します。(☞9ページ)
 - 4 接続するすべての機器の音量を最小にします。
 - 5 入力機器側から出力機器側の順にすべての機器の電源を入れます。

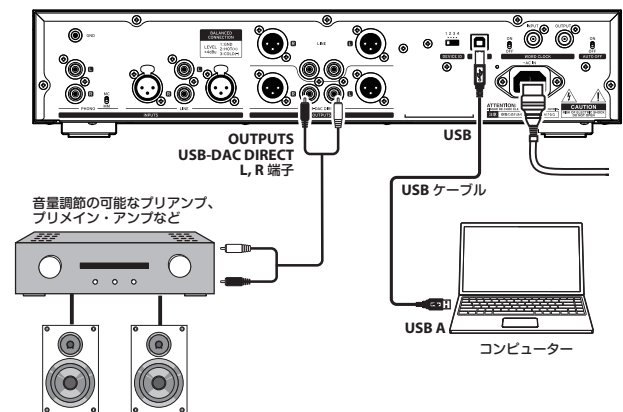
2. DSDファイルをネイティブ再生する

コンピューター内のDSDオーディオ・ファイルを、サンプリング周波数を変換せずに再生します。

ダイレクト出力で再生する

コンピューター内のDSDオーディオ・ファイルをNu IのNutube、音量調節回路を通さずにダイレクト出力する例です。

・接続設定例



- 1 Nu Iを設定します。
MODEセクター：USB
- 2 AudioGateでDSDが再生できるように設定します。
Windows PCは「AudioGate の設定：Windows PC (ASIO)」(☞13ページ)を参照してください。
Macは「AudioGate の設定：Mac (Core Audio)」(☞13ページ)を参照してください。
- 3 AudioGateの再生ボタンをクリックして音声を再生します。
- 4 プリメイン・アンプなどの接続先の機器を、適切な音量に調節します。

AudioGateの設定: Windows PC (ASIO)

1 AudioGateを起動します。

アプリケーションは、USB 接続した Nu1 の電源をオンにしてから10秒程度待ってからを起動してください。Nu1 がコンピューターに認識されるまでに少し時間がかかります。

Note: 初回は、Nu1 が接続されていることが確認された時点でライセンス認証(アクティベーション)が完了します。

2 [Menu]から[編集]-[環境設定...] [Menu] を選択して[オーディオ・デバイス]タブをクリックします。または、[Menu]横のオーディオ・デバイスのサンプリング周波数の表示部をクリックします。



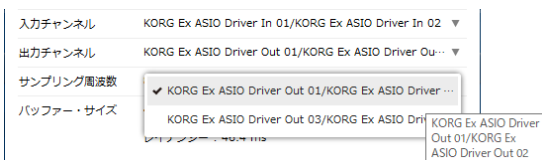
3 [ドライバの種類]で「ASIO」を選択します。



4 [出力デバイス名]で「KORG Ex ASIO Driver」を選択します。



5 複数台のNu1を接続している場合は、[入力チャンネル]と[出力チャンネル]に、使用するステレオ・ペアを選択します。



6 [サンプリング周波数]を「Auto」に設定します。



7 OKボタンをクリックします。

8 ソング・リストにDSDIFF、DSFまたはWSDファイルをドラッグ&ドロップして追加(ADD)します。または、[Menu][ファイル][オーディオ・ファイルを追加...]から選びます。

9 AudioGateの再生ボタンをクリックして音声を再生します。

- プリメイン・アンプなどの接続先の機器を、適切な音量に調節します。

10 Nu1 Control Panelを起動して、WDM/ASIOタブを表示します。

- Windowsスタートメニューのコントロールパネルで「すべてのコントロールパネル項目」を表示します。

“Nu1 Control Panel”をクリックして、コントロールパネルを表示し、WDM/ASIOタブを選択します。

または、

- AudioGateの「環境設定」画面の「コントロール・パネル」ボタンをクリックして“Nu1 Control Panel”、WDM/ASIOタブを選択します。

11 バッファ・サイズを調節します。

Note: 再生時に音飛びや雑音が頻発に発生する場合は、バッファ・サイズを調節することでパフォーマンスを改善できる場合があります。また録音時にはCPU負荷の影響で発生するエラーを防ぐため、最大に設定することをおすすめします。

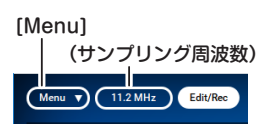
AudioGateの設定: Mac (Core Audio)

1 AudioGateを起動します。

アプリケーションは、USB 接続した Nu1 の電源をオンにしてから10秒程度待ってからを起動してください。Nu1 がコンピューターに認識されるまでに少し時間がかかります。

Note: 初回は、Nu1 を接続されていることが確認された時点でライセンス認証(アクティベーション)が完了します。

2 [Menu]から[AudioGate]-[環境設定...] [Menu] を選択して[オーディオ・デバイス]タブをクリックします。



または、[Menu] 横の オーディオ・デバイスのサンプリング周波数の表示部をクリックします。

- [ドライバの種類]で「CoreAudio」が選択されていることを確認します。



- [出力デバイス名]と[入力デバイス名]に共に「KORG Ex Audio Device (NU100n)」(n = 1~4, リア・パネルのIDスイッチの設定値)を選択します。

Note: 録音しない場合、[入力デバイス名]は空欄でも構いません。

⚠ デバイス名の後に「(NU100n)」が表示されないときはドライバーがインストールされていません。必ず KORG Ex Audio Driver をインストールしてください。



- [サンプリング周波数]を「Auto」に設定します。



- OKボタンをクリックします。

- ソング・リストにDSDIFF、DSFまたはWSD ファイルをドラッグ&ドロップして追加(ADD)します。

または、[Menu][ファイル][オーディオ・ファイルを追加...]から選びます。

- AudioGateの再生ボタンをクリックして音声を再生します。

- ・プリメイン・アンプなどの接続先の機器を、適切な音量に調節します。

- 「バッファー・サイズ」を調節します。

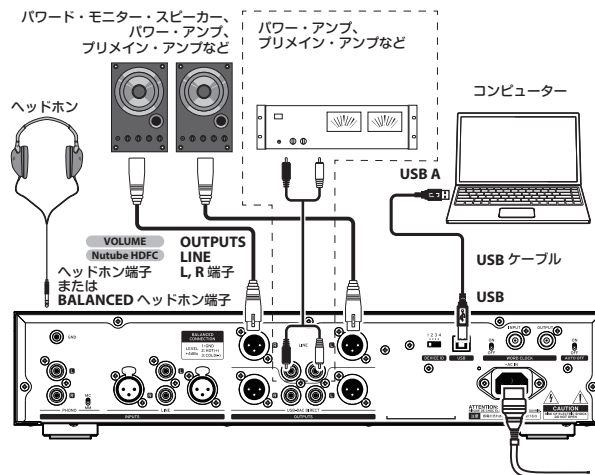
Note: 再生時に音飛びや雑音が発生する場合は、バッファー・サイズを調節することでパフォーマンスを改善できる場合があります。また録音時にはCPU負荷の影響で発生するエラーを防ぐため、最大に設定することをおすすめします。

Nutube の効果をかけて再生する

コンピューター内のDSD オーディオ・ファイルをNu 1のNutube、音量調節回路を通して再生する例です。

Nutubeの効果を楽しむときや、音量調節ができない機器に接続するときの設定です。

・接続設定例



⚠ Nu 1のボリューム・ノブを左に回しきり、最小にします。

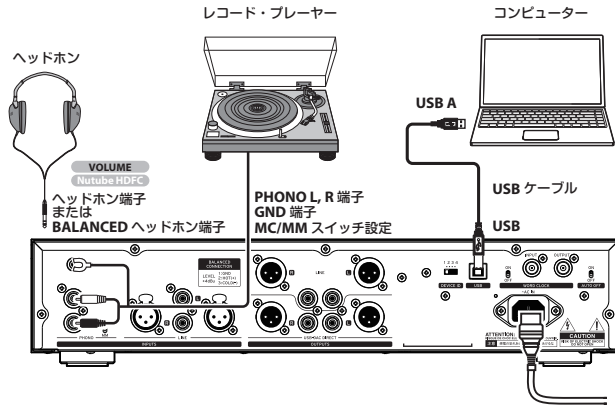
- Nu 1を設定します。
MODEセクター: USB
Nutubeボタン、Nutube HDFCセクター: 任意
- AudioGateでDSDが再生できるように設定します。
Windows PCは「AudioGateの設定: Windows PC (ASIO)」(☞13ページ)を参照してください。
Macは「AudioGateの設定: Mac (Core Audio)」(☞13ページ)を参照してください。
- AudioGateの再生ボタンをクリックして音声を再生します。
- 適切な音量になるように、Nu 1 のボリューム・ノブを調節します。

3. DSDで録音する

レコード・プレーヤーの音声を録音する

レコード・プレーヤーの音声にフォノ・イコライザーをかけて、ヘッドホンでモニターしながら、コンピューターでDSD録音する例です。

・接続設定例



▲ Nu Iのボリューム・ノブを左に回しきり、最小にします。

1 Nu Iを設定します。

INPUT SOURCEセレクター: PHONO

MODEセレクター:

ANALOG Nu I本体に内蔵されているフォノ・イコライザーを使用する場合。

USB AudioGateのフォノ・イコライザーを使用する場合。

Nutubeボタン、Nutube HDFCセレクター: 任意^{*1}

*1 Nutubeの効果はヘッドホン端子、OUTPUTS LINE端子から出力される音声にのみかかります。Nutubeを通った音声を録音することはできません。

AudioGate、Nu I Control Panelの設定

1 AudioGateを起動します。

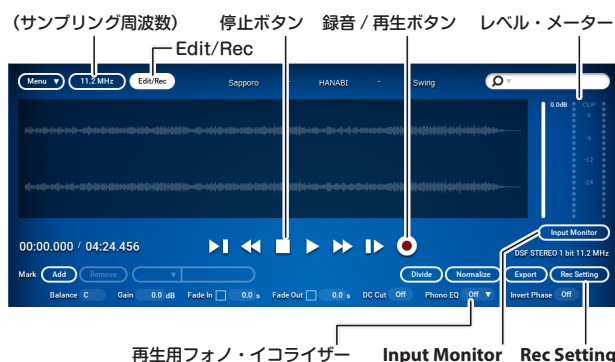
2 DSDが録音、再生できるように設定します。

サンプリング周波数は2.8MHz、5.6MHz、11.2MHzのいずれかを選択し、バッファー・サイズは最大を推奨します。

Windows PCは「AudioGateの設定: Windows PC (ASIO)」(☞13ページ)を参照してください。

Macは「AudioGateの設定: Mac (Core Audio)」(☞13ページ)を参照してください。

3 AudioGateの編集/録音画面([Edit/Rec])でRec Settingボタンをクリックして、「録音設定」を表示します。



4 アナログ・レコードにNu I本体に内蔵されているフォノ・イコライザーをかけて録音するときは、次のように設定します。

「録音用フォノ・イコライザーの種類」: Off

Nu IのMODEセレクター: Analog

• アナログ・レコードに AudioGate フォノ・イコライザーをかけて録音するときは、「録音用フォノ・イコライザーの種類」を次のように設定します。

「録音用フォノ・イコライザーの種類」: 録音するアナログ・レコードにあったフォノ・イコライザーを選択。通常、RIAAを設定。

Nu IのMODEセレクター: USB

• 録音時にフォノ・イコライザーの効果をかけないで録音するときは、次のように設定します。

「録音用フォノ・イコライザーの種類」: Off

Nu IのMODEセレクター: USB

5 「DSD録音ファイル形式」をクリックして、「DSDIFF」、「DSF」または「WSD」を選択します。

6 OKボタンをクリックして「録音設定」を閉じます。

7 AudioGateのInput Monitorボタンをクリックします。

8 Nu I Control Panelを起動して、Nu Iタブを表示します。

• Windows PCは、Windows スタートメニューのコントロールパネルで「すべてのコントロールパネル項目」を表示します。

「Nu I Control Panel」をクリックして、コントロールパネルを表示し、Nu Iタブを選択します。

• Mac は、アプリケーションフォルダーより KORG Nu I Control Panel.appを開き、コントロールパネルを表示し、Nu Iタブを選択します。

• AudioGateの「環境設定」画面の「コントロール・パネル」ボタンをクリックして「Nu I Control Panel」を表示することもできます。

9 オーディオ機器を再生し、Nu I Control PanelのNu Iタブで入力レベル・スライダーをドラッグして、AudioGateのレベル・メーターが0(dB)を超えないように調節します。

10 AudioGateの録音ボタン[●]をクリックします。

録音が始まります。

11 停止ボタン[■]をクリックします。

録音が終了します。

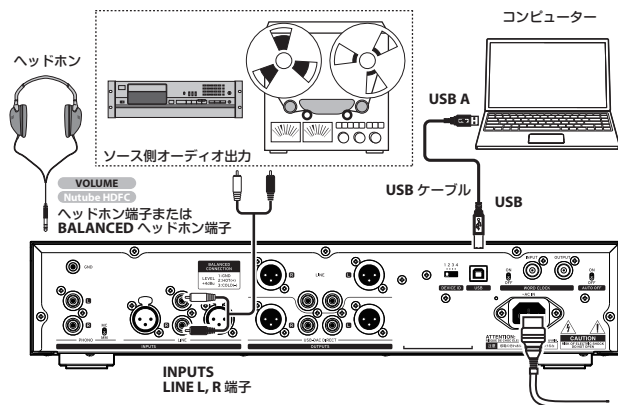
Tip: フォノ・イコライザーの効果をかけないで録音したオーディオ・ファイルに、フォノ・イコライザーの効果をかけて再生するときは、編集/録音画面([Edit/Rec])で「PhonoEQ」を設定します。

▲ 詳しくはAudioGateの取扱説明書を参照してください。

ライン入力した音声を録音する

INPUTS LINE 端子に接続された機器の音声を、ヘッドホンでモニターしながらコンピューターでDSD録音する例です。

・接続設定例



▲ Nu 1のボリューム・ノブを左に回しきり、最小にします。

1 Nu 1を設定します。

INPUT SOURCE セレクター: RCA または XLR (図の場合 RCA)

MODE セレクター: USB

Nutube ボタン、Nutube HDFC セレクター: 任意*1 → p.15

AudioGate、Nu 1 Control Panel の設定

1 AudioGateを起動します。

2 DSDで録音、再生できるように設定します。

Windows PC は「AudioGate の設定: Windows PC (ASIO)」(☞ 13 ページ) を参照してください。

Mac は「AudioGate の設定: Mac (Core Audio)」(☞ 13 ページ) を参照してください。

サンプリング周波数は 2.8MHz、5.6MHz、11.2MHz のいずれかを選択し、バッファ・サイズは最大を推奨します。

3 AudioGate の編集/録音画面 ([Edit/Rec]) で Rec Setting ボタンをクリックして、[録音設定] を表示します。

4 [DSD 録音ファイル形式] をクリックして、[DSDIFF]、[DSF] または [WSD] を選択します。

5 OK ボタンをクリックして [録音設定] を閉じます。

6 AudioGate の Input Monitor ボタンをクリックします。

7 Nu 1 Control Panel を起動して、Nu 1 タブを表示します。

「レコード・プレーヤーの音声を録音する」の手順 8 を参照してください (☞ 15 ページ)。

8 オーディオ機器を再生し、Nu 1 Control Panel の Nu 1 タブで入力レベル・スライダーをドラッグして、AudioGate のレベル・メーターが 0 (dB) を超えないように調節します。

9 AudioGate の録音ボタン [●] をクリックします。

録音が始まります。

10 停止ボタン [■] をクリックします。

録音が終了します。

▲ 詳しくは AudioGate の取扱説明書を参照してください。

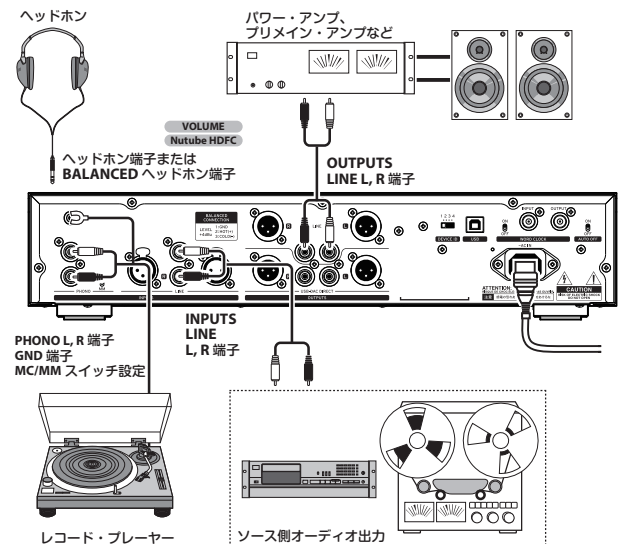
Tip: モニター音のレイテンシー (入力音に対する遅れ) が大きくなって気になるときは、MODE セレクターを ANALOG にすると、ヘッドホンで入力音を確認することができます。(ダイレクト・モニタリング)

4. アナログ入出力のオーディオ・アンプとして使用する

コンピューターに接続しないで使用する

フォノ・イコライザー内蔵の Nutube オーディオ・アンプとして使用する例です。

・接続設定例



▲ Nu 1のボリューム・ノブを左に回しきり、出力先の機器の音量を最小にします。

1 Nu 1を設定します。

INPUT SOURCE セレクター: 入力ソースを選択

MODE セレクター: ANALOG

Nutube ボタン、Nutube HDFC セレクター: 任意

▲ 設定を切り替えるときは、ボリューム・ノブを最小にして、操作してください。

2 入力側に接続した機器で音声を再生し、Nu 1 のボリューム・ノブ、および出力先の機器で音量を調節します。

5. 「S.O.N.I.C. リマスタリング・テクノロジー」を使用してPCM 音声をDSDに変換する

KORG Ex Audio Driver に内蔵された S.O.N.I.C. リマスタリング・テクノロジー (以下、S.O.N.I.C. 機能) を使用すれば、iTunes、YouTube などコンピューター上のすべての音声を DSD に変換して再生することができます。S.O.N.I.C. 機能を有効にするには Nu I Control Panel を起動し (☞15 ページ)、S.O.N.I.C. タブの ON/OFF スイッチを ON に設定します。

Note: AudioGate で PCM ファイルを再生するとき AudioGate 上のリアルタイム DSD 変換機能を使わず、S.O.N.I.C. 機能を使用したいときには、サンプリング周波数を "Auto" に設定して PCM のまま再生してください。

Note: S.O.N.I.C. 機能は、PCM 出力時のみ有効です。アプリケーションで DSD (2.8MHz/5.6MHz/11.2MHz) のサンプリング周波数が選択されているときは、S.O.N.I.C. 機能が無効となり、アプリケーションの設定で出力されます。

詳細は、ドライバーに同梱された「Nu I コントロールパネル設定」を参照してください。

6. 複数の Nu I を接続して、マルチトラック・レコーディングする

1 台のコンピューターに Nu I を 4 台まで接続して、マルチチャンネル・オーディオ・インターフェイスとして使用できます。詳細は、ソフトウェア AudioGate Recording Studio に付属の「マルチトラック・レコーディング・ガイド」を参照してください。

付録

故障とお思いになる前に

動作がおかしいと思ったときは、以下の項目を確認してください。

なお、最新の情報は以下のコルグ・ウェブサイトに記載されています。

https://www.korg.com/nu_1/

電源がオンにならない

- ・ 電源コードがコンセントに接続されていますか？
- ・ ⏻ (電源) ボタンを押しましたか？

電源がオフにならない (スタンバイ状態にできない)

- ・ ⏻ (電源) ボタンを長く押しましたか？

本機の電源がオフになってしまう

- ・ Nu I の AUTO OFF スイッチを ON にして、MODE セレクターを ANALOG で動作させているときに、ボタンやボリュームなどを操作しない、かつ入力のない無音の状態が 30 分経過すると、電源が自動的にオフになります。(オート・パワー・オフ)

この場合、再度電源を入れてください。また、自動的にオフにならないようにしたいときは、AUTO OFF スイッチを OFF にしてください。

コンピューターで認識できない

- ・ パソコン側と本体側の USB ケーブルの接続を確認してください。
- ・ 動作確認時は付属の USB ケーブルをお使いください。
- ・ Nu I を USB 接続してからコンピューターに認識されるまで少し時間がかかりますので、10 秒程度経過してからコントロール・パネル、アプリケーションを起動してください。
- ・ ドライバーのインストールは行いましたか？ (Windows の場合)
- ・ Nu I Control Panel の Nu I タブで設定した DEVICE ID が表示されていることを確認してください。“Disconnected” と表示されている場合は Nu I がコンピューターに認識されていません。その場合は USB ケーブルの抜き差しをしてから Nu I Control Panel を再起動して確認してください。それでも認識されない場合は次のいずれかを行う必要があると思われます。
 - 1) USB ケーブルに問題がないか確認する。
 - 2) Nu I の電源を入れ直す。
 - 3) コンピューターを再起動する。
 - 4) ドライバーを再インストールする。

Nu I Control Panel を開く方法

Windows PC の場合

スタートメニュー → コントロールパネルから Nu I Control Panel を開きます。

Mac OS X の場合

アプリケーション → KORG Nu I Control Panel.app を開きます。

- ・ CLOCK インジケーターが点滅していませんか？ (☞「CLOCK インジケーター」5 ページ)

本機から音が出ない

- ・ 本機のボリューム・ノブの位置は適正ですか？
- ・ OUTPUTS端子に接続されている機器の音量は適切ですか？
- ・ MODEセクターがANALOGのときは、INPUTS端子に入力された音声はUSB-DAC DIRECT端子からは出力されません。ヘッドホンで聴くかLINE端子に機器を接続して聴いてください。
- ・ MODEセクターがANALOGのときは、AudioGateなどコンピューターで再生した音はLINE端子からは出力されません。USB-DAC DIRECT端子に機器を接続して聴いてください。
- ・ INPUT SOURCEセクターの設定は合っていますか？
- ・ 本機がNu I Control Panelで正常に認識されていることを確認してください。

サンプリング周波数を変更できない

- ・ S.O.N.I.C.機能が有効になっている間は、Nu Iを使用しているすべてのアプリケーションの出力が、Nu I Control Panelのメニューにある「設定」で選択されたDSDのサンプリング周波数にアップサンプリングされて出力されません。そのため、AudioGate等のアプリケーションでサンプリング周波数を変更してもNu I本体のサンプリング周波数は変わりません。

DSDを選択できない

- ・ (Windowsの場合)ASIOドライバーをインストールしましたか？
- ・ USBケーブルを接続し直してみてください。

⓪(電源)ボタンのインジケーターが点滅している

- ・ 赤色が点滅している場合は、システムエラーが発生しています。一度USBケーブルを抜き、再度接続して電源を入れ直してください。何回か試しても状態が変わらない場合は故障が考えられますので、コルグお客様相談窓口にご連絡ください。

音が途切れる/ノイズが混ざる

- ・ ノートパソコンをお使いの場合は、省電力設定にしているとCPU性能が高くても再生中に音が途切れたり、ノイズが発生する場合があります。状況に合わせて「コントロールパネル」の「電源オプション」で電源プランを変更、またコンピューター独自のecoプランなどもオフにしてください。
- ・ WiFi環境は不安定なことが多く、コンピューターから見えなくなると再検索のため大きな負荷がかかり、音が途切れることがあります。高サンプリング周波数での録音時はWiFiを切(オフ)にすることを勧めます。
- ・ AudioGateの録音用フォノ・イコライザーを使っていますか？

INPUTS LINEのXLR端子、RCA端子からの入力を録音するとき、またはMODEセクターがANALOGのときにAudioGateの録音用フォノ・イコライザーが設定されていると音が歪みます。

Nu IのMODEセクターがUSBで、フォノ・イコライザーを内蔵しない通常のレコード・プレーヤーを直接PHONO端子に接続して録音するときだけ、AudioGateで録音用フォノ・イコライザーを設定してください。

録音用フォノ・イコライザーを選択して高いサンプリング周波数で録音しているときに、コンピューターの処理が間に合わずにノイズが入ることがあります。そのときは録音用フォノ・イコライザーをOffにして録音し、再生時に再生用フォノ・イコライザーを選択してください。ま

たは、再生用フォノ・イコライザーをかけてエクスポート(Export)して、そのファイルを再生してください。

- ・ 入力レベルは適正ですか？
入力レベルはNu I Control Panel(☞15ページ)で設定します。録音に使用するAudioGate、AudioGate Recording Studioなどのレベル・メーターを見ながら、入力レベルを調整してください。
- ・ AudioGateによる再生時は、DSDへのリアルタイム変換処理を「高品位」で行うとCPUの処理負荷が高くなります。この場合は「低負荷」に設定するか、エクスポートしてDSDファイルを作成してから再生してください。
- ・ AudioGateによる再生時に、再生用フォノ・イコライザーを選択している場合は、再生用フォノ・イコライザーをかけた状態でエクスポート(Export)して、そのファイルを再生してください。
- ・ AudioGateのMaster VolumeおよびGainが0.0dB以外になっている場合は、CPUの処理負荷を軽減するため0.0dBに設定してください。
- ・ Windows PCで再生時は、スタートメニュー→コントロールパネルからNu I Control Panelを起動し、ASIOタブを表示してBuffer Sizeを調節してください。
* コンピューターの性能が低い場合は、Buffer Sizeを大きくする方向で調節してください。
- ・ MacでCore Audio再生時は、AudioGateの環境設定のオーディオ・デバイス・タブでバッファ・サイズを調節してください。
- ・ オーディオ・デバイスのサンプリング周波数が変わるときに「ブツッ」というようなノイズが聴こえる。
オーディオ・デバイスのサンプリング周波数をAutoに設定している場合や、手動でサンプリング周波数を変えたときに「ブツッ」というような小さなノイズが聞こえることがあります。故障ではありません。
- ・ 多くのソフトウェアを同時に動かしたり、立ち上げていませんか？

Nutubeをオンにすると、入力されている音声のレベルが下がる

- ・ MODEセクターをANALOGに設定して、USBに接続したコンピューターで録音(または入力音をモニター)するときは、Nutubeはオフにしてお使いください。(☞「Nutubeボタン」5ページ)
Nutubeをオンにすると、入力されている音声のレベルが下がります。

Note: Nutubeの効果は録音することができません。

製品本体からカチカチという音がする

- ・ Nu Iは出力のミュートにリレーを採用しています。そのため、電源オン/オフ時やINPUT SOURCEを切り替えたときなどに、リレーが動作して、切り替え音が聞こえます。
- ・ コンピューターでの処理が間に合わない場合に、ノイズを抑制するためリレーが作動することがあります。

仕様

使用温度条件	0℃～+40℃(結露させないこと)			
オーディオ・インターフェイス				
チャンネル数	2チャンネル			
対応フォーマット(USB)	DSD: 2.8224MHz / 5.6448MHz / 11.2896MHz, 1bit 3.072MHz / 6.144MHz / 12.288 MHz, 1bit (S.O.N.I.C. リマスタリング・テクノロジー使用時のみ)			
	PCM: 44.1/48/88.2/96/176.4/192/352.8/384kHz, 16bit/24bit			
ホスト・インターフェイス	USB2.0(ハイスピード), アイソクロノス・アシンクロナス転送			
オーディオ・ドライバー	ASIO2.1, WDM, Core Audio			
一般				
インジケータ	STANDBY / ON, CLOCK, Nutube ON/OFF, DSD/PCMモード表示			
自動電源オフ	30分間無操作・無入力時 (MODE=ANALOGかつAUTO OFF SW=ON)			
電源	AC100V			
消費電力	40W			
外形寸法	432(W)×282(D)×93(H)mm(突起部含む)			
質量	5.9 kg			
主要規格				
周波数特性	10Hz～80kHz -3dB (@USB-DAC DIRECT) 10Hz～20kHz ±1dB (@fs=44.1kHz / 48kHz)			
ダイナミック・レンジ	120dB (TYP.)@20Hz～20kHz			
真空管	Nutube 6P1 x 2			
コネクタ				
INPUTS	形状	規定入力レベル	最大入力レベル	入力インピーダンス
INPUTS LINE L, R	XLR-3-31 (1: GND, 2: HOT, 3: COLD), BALANCED	+4dBu (1.23Vrms)	+20dBu (7.75Vrms): (0dBFS, 0dB-SACD)	22kΩ
	RCAピン・ジャック	-6dBV (0.5Vrms)	+6dBV (2.0Vrms): (0dBFS, 0dB-SACD)	50kΩ
INPUTS PHONO L, R	MC MM RCAピン・ジャック	0.3mVrms@1kHz	5.0mVrms@1kHz	220Ω
		5mVrms@1kHz	35mVrms@1kHz	50kΩ
OUTPUTS	形状	規定出力レベル	最大出力レベル	負荷インピーダンス
OUTPUTS LINE L, R / USB-DAC DIRECT L, R	XLR-3-32 (1: GND, 2: HOT, 3: COLD), BALANCED	+4dBu (1.23Vrms)	+20dBu (7.75Vrms): (0dBFS, 0dB-SACD)	600Ω以上
	RCAピン・ジャック	-6dBV (0.5Vrms)	+6dBV (2.0Vrms): (0dBFS, 0dB-SACD)	10kΩ以上
ヘッドホン	XLR-4-32 (1: L+, 2: L-, 3: R+, 4: R-, スクリーン: GND), BALANCED	-	500mW+500mW@60Ω, 300mW+300mW@300Ω	32Ω以上
	φ6.3mmステレオ・フーン・ジャック	-	400mW+400mW@32Ω	16Ω以上
WORD CLOCK IN/OUT	形状: BNCレセプタブル, 75Ω			
USB(デバイス)	形状 / フォーマット: タイプB / USB 2.0準拠 ハイ・スピード			
対応OS				
Windows	Microsoft Windows 10(32bit, 64bit)			
Mac OS	Mac OS X 10.11 El Capitan 以降			
付属品	電源コード, USBケーブル, 取扱説明書			

* 仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

保証規定(必ずお読みください)

本保証書は、保証期間中に本製品を保証するもので、付属品類(ヘッドホンなど)は保証の対象になりません。保証期間内に本製品が故障した場合は、保証規定によって無償修理いたします。

1. 本保証書の有効期間はご購入日より1か年です。
2. 次の修理等は保証期間内であっても有償となります。
 - ・ 消耗部品(電池、スピーカー、真空管、フェーダーなど)の交換。
 - ・ お取り扱い方法が不適当のために生じた故障。
 - ・ 天災(火災、浸水等)によって生じた故障。
 - ・ 故障の原因が本製品以外の他の機器にある場合。
 - ・ 不当な改造、調整、部品交換などにより生じた故障または損傷。
 - ・ 保証書にお買い上げ日、販売店名が未記入の場合、または字句が書き替えられている場合。
 - ・ 本保証書の提示がない場合。

尚、当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても、修理した日より3か月以内に限り無償修理いたします。

3. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
4. お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証は引き続きお使いいただけます。詳しくは、お客様相談窓口までお問い合わせください。
5. 修理、運送費用が製品の価格より高くなる場合がありますので、あらかじめお客様相談窓口へご相談ください。発送にかかる費用は、お客様の負担とさせていただきます。
6. 修理中の代替品、商品の貸し出し等は、いかなる場合においても一切行っておりません。

本製品の故障、または使用上生じたお客様の直接、間接の損害につきましては、弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

本保証書は、保証規定により無償修理をお約束するためのものです。これよりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

■ お願い

1. 保証書に販売年月日等の記入がない場合は無効となります。記入できないときは、お買い上げ年月日を証明できる領収書等と一緒に保管してください。
2. 保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

コルグ Nu I

保証書

本保証書は、上記の保証規定により無償修理をお約束するものです。

お買い上げ日 年 月 日
販売店名

アフターサービス

■ 保証書

本製品には、保証書が添付されています。お買い求めの際に、販売店が所定事項を記入いたしますので、「お買い上げ日」、「販売店」等の記入をご確認ください。記入がないものは無効となります。なお、保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

■ 保証期間

お買い上げいただいた日より一年間です。

■ 保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

■ 保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品(電子回路など)のように機能維持のために必要な部品の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品(パネルなど)の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめお客様相談窓口へお問い合わせください。

■ 修理を依頼される前に

故障かな?とお思いになったら、まず取扱説明書をよくお読みのうえ、もう一度ご確認ください。それでも異常があるときは、お客様相談窓口へお問い合わせください。

■ 修理時のお願い

修理に出す際は、輸送時の損傷等を防ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

■ ご質問、ご相談について

修理または商品のお取り扱いについてのご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

WARNING!

この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です。

This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

お客様相談窓口 0570-666-569

一部の電話ではご利用になれません。固定電話または携帯電話からおかけください。
受付時間 月曜日～金曜日 10:00～17:00
(祝日、窓口休業日を除く)

サービス・センター:

〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-15-10

株式会社コルグ

本社: 〒206-0812 東京都稲城市矢野口 4015-2
©2018 KORG INC.

www.korg.com
Published 10/2021 3010 GT Printed in Japan